

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第41週 (10/8-10/14) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	41週	40週	39週	38週
小児科	18	17	18	15
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	26	27	23
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	10/8-10/14	10/1-10/7	9/24-9/30	9/17-9/23	10/1-10/7
			41週	40週	39週	38週	40週
小児科	RSウイルス感染症		4	5	6	5	129
	咽頭結膜熱		1	1	4	4	64
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	19	20	22	244
	感染性胃腸炎	○	69	57	35	37	349
	水痘		2	1	0	0	30
	手足口病		27	40	15	15	190
	伝染性紅斑	↓	8	8	7	5	95
	突発性発しん		13	14	14	6	62
	ヘルパンギーナ		8	8	15	15	114
	流行性耳下腺炎		4	1	2	1	17
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2	2	2	3	51
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		5	4	4	5	40
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	3
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	50歳代	病原体の分離・同定等	急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び先行感染症状
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	30歳代	画像検査等	百日咳	女性	40歳代	抗体の検出
結核	女性	70歳代	病原体等の検出等	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出等
				-	-	-	-

・第41週は、結核5件(140)、腸管出血性大腸菌感染症1件(21)、レジオネラ症1件(14)、急性脳炎1件(10)、百日咳2件(180)、風しん2件(66)の報告があった。

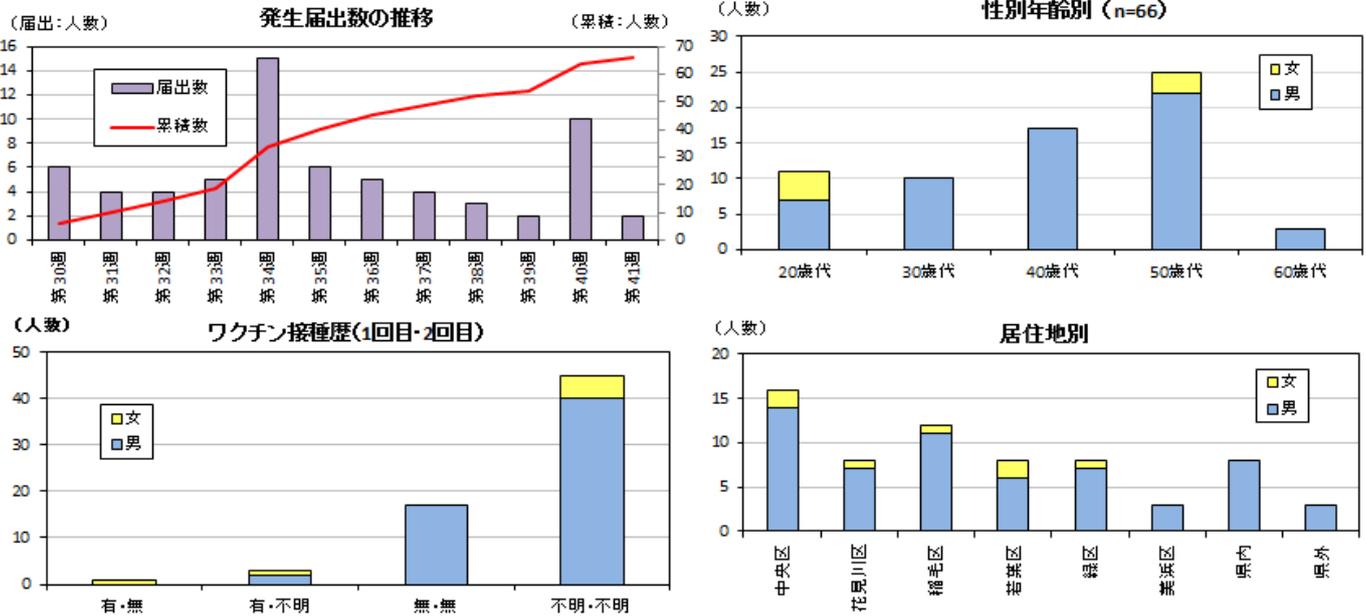
※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第41週のコメント

<感染性胃腸炎>前週から増加し3.83となった。過去10年の同時期と比べると多い。
<伝染性紅斑>前週から若干減少し0.44となった。過去10年の同時期と比べると多め。

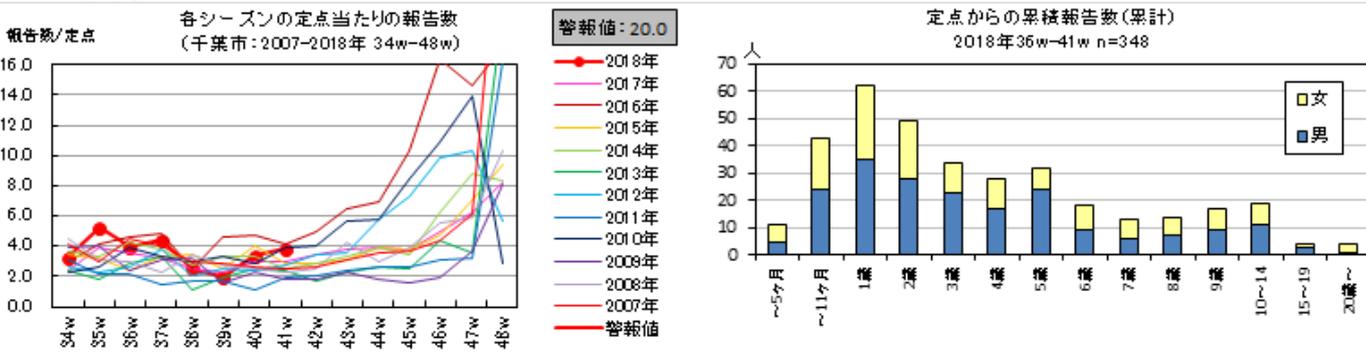
<風しん>

全国レベルの第40週の累積報告数は1103件で、昨年の同時期と比べるとおよそ16倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県の前で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第41週は2件の発生届があり、2018年の累計は66件となりました。性別では男性が89.4% (59名)、女性が10.6% (7名)で、いずれも成人で年齢階級別では50歳代 (37.9% : 25名)、40歳代 (25.8% : 17名)、20歳代 (16.7% : 11名)の順で多く、40歳代~50歳代が中心となっています。居住地別は、中央区 (24.2% : 16名)、稲毛区 (18.2% : 12名)の順で多くなっています。ワクチン接種歴は無し又は不明の症例が9割を超えています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第40週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、大分県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第41週は前週より増加し3.83となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。例年の発生動向によると、今後増加する傾向があります。区別の発生状況は稲毛区 (7.0/定点)で最多で、同区の6~11か月、1歳、3歳及び6歳で比較的多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第41週の累積報告数は348件で、性別では男性が58.0% (202名)、女性が42.0% (146名)で、年齢階級別では1歳 (17.8% : 62名)、2歳 (14.1% : 49名)、6~11か月 (12.4% : 43名)の順で多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第40週は、過去10年の同時期と比べると、2015年と並んで最多となっています。都道府県別では宮城県、神奈川県、東京都の前で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第41週は前週より若干減少し0.44となりましたが、過去10年の同時期と比べると多めのままとされています。区別の発生状況は稲毛区 (1.0/定点)で最多で、同区の1歳、3歳及び7歳で発生報告がありました。2018年第1週から第41週の累積報告数は79件で、性別では男性が55.7% (44名)、女性が44.3% (35名)で、年齢階級別では4歳 (19.0% : 15名)、5歳 (13.9% : 11名)、1歳 (12.7% : 10名)の順で多くなっています。

